

## 特集 学会賞

# シティズンシップを身に付け たくましく社会で生きていける生徒の育成

—金融(株式)教育における投資シミュレーション型学習導入の効果的指導研究を通して—

大分県立情報科学高等学校

教諭 衛藤 準/Jun ETO

### キーワード (Key Words)

シティズンシップ (Citizenship), ダイバシティ (Diversity), サステナビリティ (Sustainability), キー・コンピテンシー (Key-Competencies), 金融経済教育 (Personal Finance Education), 探求型学習 (Exploration-Based Learning), シミュレーション型学習 (Simulation-Based Learning), 地球市民 (Global Citizen)

### 〈要 約〉

世界各地でシティズンシップ (市民性, 市民的資質, 以下, CS) とそれを育むシティズンシップ教育 (以下, CE) が大きな広がりを見せている。日本でも, 2010年発表の「子ども・若者ビジョン」の中で、『社会形成・社会参加に関する教育 (シティズンシップ教育)』の推進が, 初めて国策として明確に位置付けられた。CEにかかわる国内外の資料を詳細に参照しつつ, 本校生徒に対し実践的な金融(株式)教育の実践検証を行った。本研究成果を3点にまとめる。① CSは, 「世界標準の生きる力, 生き抜く力」である。『CSを身に付けたたくましく社会で生きていける児童・生徒の育成を目指すこと』が, 学校教育におけるCEの理念であり, 21世紀の地球市民の喫緊の課題と考えられる。② CE推進には, 金融経済活動分野の充実が不可欠である。社会に主体的に参画できる行動力, 自立・自律する力を身に付けるためには同分野の学習は欠かせない。特に, 「価値判断力」, 「調査・コミュニケーション」, 「意思決定力」等を磨く探求型学習機会が極めて重要である。③ 難解な株式学習も教材化の工夫で, 興味・関心から行動につなげることができる。金融経済活動において株式学習は欠くことができない。初心者に対しても, 短時間で, 金融経済について理解させ, 株式購入のスキルを高める実践は展開できる。CE具現化には, 金融(株式)のシミュレーション型学習の活用が大変効果的である。

### 目 次

- |                             |                        |
|-----------------------------|------------------------|
| 1. はじめに                     | 4.4 検証授業指導計画と指導法の創造と工夫 |
| 2. 日本的CS概念の確立と方向性の明確化       | 5. 検証授業の実際と考察          |
| 3. CE推進の具体的体系化・実践に向けて       | 5.1 【検証授業第1時】          |
| 3.1 小・中・高等学校でのCEの具体的な取組     | 10月21日 木曜日 5, 6限目      |
| 3.2 手引(ガイド)の概要と高校教育課程上の位置付け | 5.2 【検証授業第2時】          |
| 4. CE教材の開発とその指導法の工夫         | 10月26日 火曜日 5, 6限目      |
| 4.1 本研究の仮説<CE:金融経済活動分野>     | 5.3 検証授業全体のまとめの考察      |
| 4.2 CE推進分野・単元で育てたい資質・能力の明確化 | 6. 成果と課題               |
| 4.3 単元の指導計画の構想              | 6.1 成果について             |
|                             | 6.2 課題について             |
|                             | 7. まとめ                 |

1. はじめに

約20年間の金融経済教育の経験から、同教育の領域は学校教育において体系的・組織的には進めづらい点がある。加えて、消費者被害や経済的自立ができない若者の増加等の課題がより深刻な社会問題となっている。

また、全県的な専門高校（教育課程）の現状を鑑みると、総合的な学習の時間の課題研究（3年次）代替型の定着により、低学年における探求型の学習機会が大きく減少していることも分かった。

新学習指導要領第1章においては、教育基本法改正で明確となった理念を踏まえ「生きる力」の意味や必要性、総合的な学習の時間への繋がりや家庭、地域の教育力を生かす方向性を一層重視することが示された。

そのような中、世界各地でシティズンシップ（市民性、市民的資質、以下、CS）とそれを育むシティズンシップ教育（以下、CE）が大きな広がりを見せている。

以上から、本研究の目的を3点にまとめる。

- 1) CEの理念・現状整理等を行い、日本では発達上領域であるCEの具体像を明確にする。
- 2) 新学習指導要領やCEが目指す育成すべき人材像を明確にし、生徒実態を踏まえて、経済金融分野において、高校で初めて学ぶ生徒を対象とした実践研究を行う。
- 3) CEの理念を広く共有でき、CE推進に役立つ各種環境づくりの第一歩となる最新手引の開発・作成を行う。

以上を踏まえ、研究構想図を作成した（図1）。

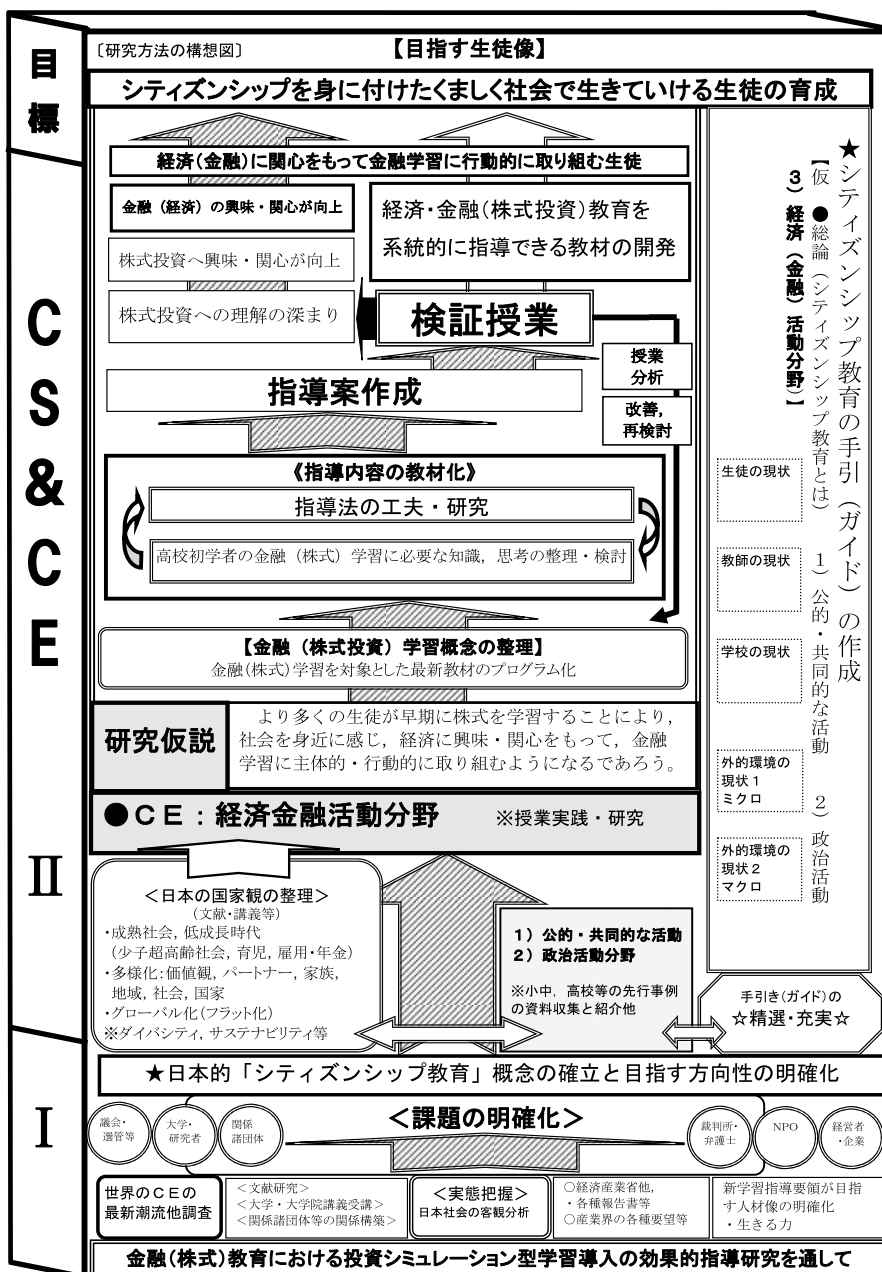


図1 研究構想図

研究の第一段階として、国内外の各種動向を文献やフィールドワーク等で俯瞰し、日本的CE概念の確立と目指す方向性を明確にする。

第二段階として、CEのガイド作成を行いながら、金融経済活動分野における授業実践・研究を行う。それらを検証しCEの具現化に向け、改善・発展につなげる。

## 2. 日本的CS概念の確立と方向性の明確化

「CSとは何か」その世界的議論の特徴は国民国家の枠組みを超えていることである。

イギリスでは2002年からCEが全国共通カリキュラムに追加され、中等教育段階で必修科目となった。欧州評議会は、2010年5月「民主主義的シティズンシップ教育と人権教育に関する欧州評議会憲章」を採択した。

日本では経済産業省から「シティズンシップ教育宣言」(平成18年3月)が出された。その中の重要分野の1つに経済活動に主体的に関わることが示された。

2009年7月には「子ども・若者支援推進法」が成立した。同年10月には当時の鳩山首相が「新しい公共」という新しい価値観を所信表明で発表した。

更に、本研究過程において前述支援推進法を具現化するビジョンが2010年7月23日に発表された。

その中で、社会形成への参画支援の柱として、社会形成・社会参加に関する教育(シティズンシップ教育)の推進が、初めて国策として明確に位置付けられた。

## 3. CE推進の具体的体系化・実践に向けて

### 3.1 小・中・高等学校でのCEの具体的な取組

本研究に参考とした全国のシティズンシップにおける先行研究事例を紹介する。

#### 3.1.1 お茶の水女子大学附属小学校市民科

同校は平成19年度まで取り組んできた研究を基盤に、平成20年度より3年間、文科省の研究開発指定を受け、「小学校における『公共性』を育む『シティズンシップ教育』」の内容・方法の研究開発を計画的かつ体系的に進めている。同校高学年の市民・社会科の学びの概要から、特に「価値判断力」・「調査・コミュニケーション」・「意思決定力」を育む部分について、本研究の構築・検証授業実施にあたり参考にした。

#### 3.1.2 品川区 市民科 について

品川区教育委員会は2006年から教育改革の目玉

として小・中9年一貫の市民科を同区全校で導入実施した。

同区の市民科の理念は、人生観の構築や自らの在り方や生き方を自覚し、生きる筋道を見付けることである。

その理念に基づき、既存の道徳・特別活動・総合的な学習の時間を統合・構成し、教育活動の中に位置付け体系化し、組織的に取り組み推進し成果を上げている。

本研究において、新学習指導要領における位置付けを考察する際にこの概念を参考にした(図4)。

### 3.1.3 神奈川県立高等学校の取り組み

神奈川県教育委員会は、シティズンシップ教育(注:神奈川県ではシティをシチと統一表記)をこれからの社会を担う自立した社会人を育成するため、「積極的に社会参加するための能力と態度を育成する教育」と位置付けた。この柱は、政治参加教育、司法参加教育、消費者教育、道徳教育の4つである。23年度から全県で本格実施される。本年度は7月の参議院選挙において、全県立高校で模擬投票を実施した。本研究は、同県が経済活動分野を消費者教育に絞った点を補完するものでもある。

### 3.1.4 自治体と企業の連携事例

日本を代表する自動車会社N社は、2009年8月に本社ビルを東京銀座から横浜市みなとみらいに移転した。同社が掲げる新理念が“Blue Citizenship”である。多くの企業と共同する街づくりが進んでいる。自治体も新たに共創推進事業本部を設置するなど、各企業と新たな市民社会の創造・推進に積極的に取り組んでいる。

これらの事例や各種書籍・文献研究、フィールドワーク等で調査・分析した結果、日本的CE概念の確立と目指す方向性が明確となった。小・中・高段階で認識が深まりを見せつつある日本の最新動向を踏まえ、CE推進の具体的体系化・実践に向けて役立つ手引作成、並びに授業実践・研究を行った。

以下、実践上、特に重要となる点について述べる。

## 3.2 手引(ガイド)の概要と高校教育課程上の位置付け

作成にあたった手引の構成を示す(図2)。

その過程や検証授業においては、経産省の在学者対象のプログラム分類をベースとした(図3)。



**目次**

本手引（ガイド）の目的と構成

第1章 今、求められているシティズンシップ教育

第2章 シティズンシップ教育の実践に向けて

1 シティズンシップ教育の目的

2 シティズンシップ教育の内容

3 シティズンシップ教育の方法

4 シティズンシップ教育の評価

第3章 シティズンシップ教育の実践例

図2 CEの手引（目次より抜粋）

教育の主体 (学習の場)		公的な正規の学校教育 (フォーメラル・エデュケーション)		○本研究対象領域
学習の形態		学 校	学校と社会の連携	
定期的教育	知識習得型学習	多くの既存の教科		経済活動の シミュレーション型 トレーニング学習
非定期的教育 (ノンフォーメラル・ エデュケーション)	シミュレーション 型学習	総合的な 学習の時間	政治・経済活動のシミュレ ーション、模擬投票、 ビジネスゲーム	
	体験型学習		職場体験、ボランティア体 験、販売体験、職場体験等	
	プロジェクト型学習			

図3 在学者を対象としたプログラム分類  
(経済産業省、2006抜粋)

次に具体的な授業実践・研究にあたり、実際の高等学校でどのような位置付けが可能かを考察した。

今回は各先行事例を総合的に判断し、「総合的な学習の時間」を具体的展開の場とした。実際の本校教育目標を生かし、1年次2学期に金融経済分野の単元を位置付け、検証を行うこととした(図4)。

特に、学習の評価について示す(図5)。

○図8 指導と評価の年間計画の手引  
・単元指導計画の評価の観点と評価規準とリンクする。

総合的な学習の時間 経済活動分野 単元：株式投資をとおして社会参加してみよう！		学習の評価
評価の観点	評価規準	
I 課題設定能力 自ら課題を見つけ、課題を設定する能力	①学校生活や日々の学習体験などから疑問や問題点を ②各教科の学習などから疑問や問題点を見付けている ③特活その他の様々な体験や講話などから疑問や問題 ④身の回りの様々なことに興味や関心をもち行動してい ⑤これらをもとに、他者や社会にかかわり、自己の課題	
	II 問題解決能力 自ら学び、自ら考え、情報を集めたりまとめたりして、よりよく問題を解決する能力	
		①課題解決や探求に向けての手順が分かり、見通しや ②見通しや計画に基づいて、自ら再考しながら、取り組 ③友達や教師に自分から働きかけて解決に向かってい ④インターネットや図書館などの資料などを自分から求 ⑤つまづいた時に次の解決策を見付け行動している。 ⑥問題解決や探求の過程の状況をまとめている。 ⑦取り組んだ結果を分かりやすく発表したり、報告書に記

図5 学習の評価：評価の観点・評価規準（抜粋）

4. CE教材の開発とその指導法の工夫

4.1 本研究の仮説

<CE：経済金融活動分野>

「より多くの生徒が早期に株式投資を学習することにより、社会を身近に感じ、経済に興味・関心をもって、経済金融学習に行動的に取り組むようになるであろう」

上記仮説のもと、CEにおける金融経済学習の積極的な展開を目指し具体的な教材開発と指導法の研究を行った。

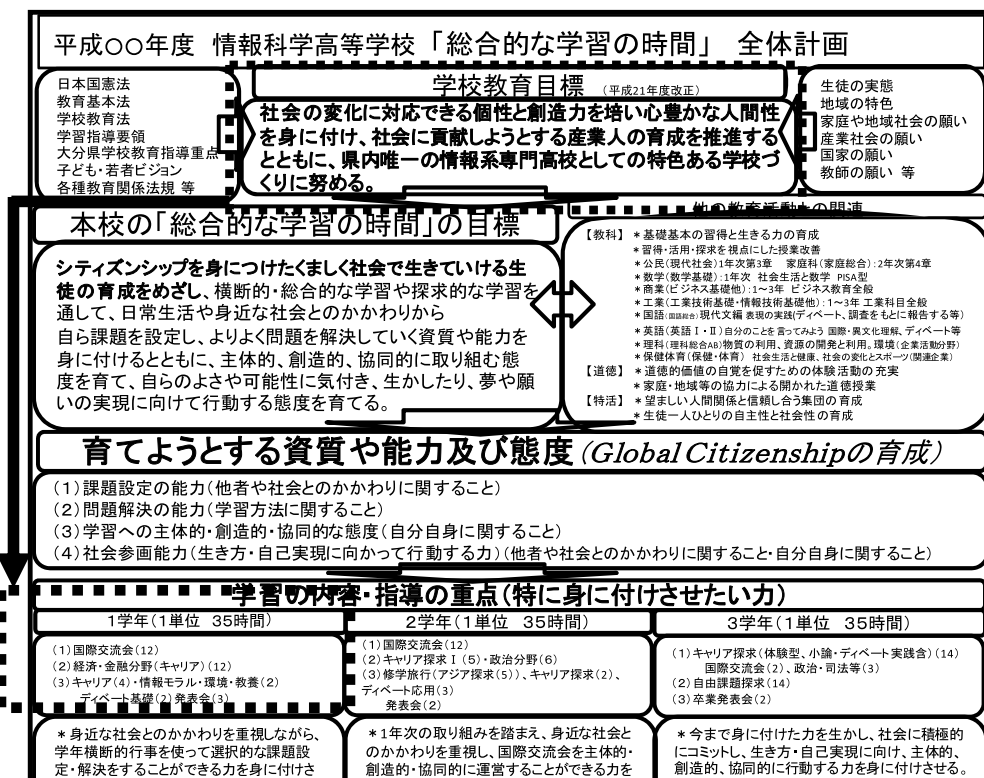


図4 総合的な学習の時間学校全体計画図（抜粋）

#### 4.2 CE推進分野・単元で育てたい資質・能力の明確化

仮説の実践・検証に向け、新学習指導要領の趣旨をベースに、育てたい資質・能力について考察し設定した。

##### 4.2.1 キー・コンピテンシー（能力）について

まず、国際標準の学力や資質や能力の考察を行った。「技能や態度を含む様々な心理的・社会的なソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な課題に対応することができる力」である。

##### 4.2.2 CEの目指す育成すべき能力

前述シティズンシップ宣言では、「市民一人ひとりがCSを發揮し、社会との関わりを通じて自分たちを守り、豊かな生活を実現して自己実現し、またよりよい社会づくりに参加する能力」として（表1）。

表1 CEの目指す育成すべき能力（抜粋）

分類	自分自身に関する意識	向上心、探求心、学習意欲、労働意欲等
意識 社会の中で、他者との協働的な関わりを持つために必要な意識	他者との関わりに関する意識	人権・尊厳の尊重、多様性、他文化の尊重、異なる他者に対する敬意と寛容、相互扶助意識、ボランティア精神等
	社会への参画に関する意識	法令、規範の遵守、政治への参画、社会に貢献し、環境との共生や持続的な発展を考える意識等
知識	経済分野での活動に必要な知識	市場原理、景気、資本主義の仕組み、ポータレス経済、消費者の権利、労働者の権利、多様な職業の存在と内容、税制、社会保障制度（年金、保険等）、金融・投資・財務、家計、医療・健康（薬物や食を含む）、悪徳商法対応、各種ハラスメント、犯罪・違法行為、CSR（企業の社会的責任）等

##### 4.2.3 金融経済教育の目標と内容

金融広報中央委員会が定めた金融経済教育の目標の中には、「経済や金融のしくみに関する分野」他、4つの分野がある。更に、①資金管理と意志決定、②貯蓄の意義と資産運用、③生活設計、④お金や金融のはたらき、⑤経済変動と経済政策等の目標は、以下の単元構成や本検証において、特に目標化し定義づけしながら盛り込んだ（表3につながる）。

#### 4.3 単元の指導計画の構想

##### 4.3.1 指導内容の教材化

金融経済学習の教材化にあたり、対象となる本校1年生の中学時までの関連する既習事項を整理した。

特に、中学3年次に学習する公民が、単元的に最も多くの内容が盛り込まれ、株式市場や企業経営等に踏み込んだ内容が既習されている（図6）。

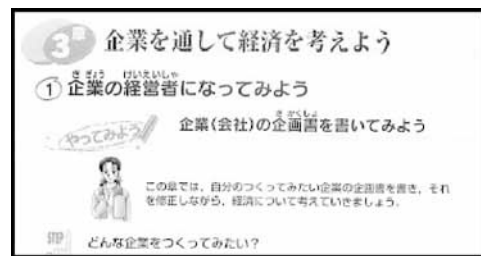


図6 中学校教科書（公民）（帝国書院）

##### 4.3.2 教材開発・指導

金融（株式）学習を対象とした最新教材のプログラム化を行っていった。まず、各種団体が提供する金融経済教育に関わる教材を4月から検討し、最も本研究の趣旨に合致したDVD教材や教育プログラムを選んだ。それらに研究目標の下に工夫を加え、更に初心者の方がより分かりやすく入っていけるよう、オリジナルのワークシートやパワーポイント等を組み合わせていった。

更に、図4に基づき、指導と評価の年間計画や単元の指導指導計画や評価計画を作成した。

結果、CEの経済金融分野を具現化する、全13時間の投資シミュレーション体験による探求型学習の単元指導計画並びに教材が完成した（表2）。

単元全体はCEの意義を十分に踏まえながら、3段階の構成とした。前段5時間はシミュレーション学習の「探求基礎」と位置付けた。

中段での5時間は「探求展開」と位置付け、広く社会人講師等を招へいし、よりダイナミックな学びへと深化を図る。最後の3時間は、まとめの「探求収束」として、発表準備・発表会を行うよう設定した。

表2 単元指導計画（全13時間分からの抜粋）

小単元名	時間計 13H	題 目	ねらいと主な学習活動		評価の場面と方法	評価の観点				評価規準
			学習活動	学習形態 ねらい		I	II	III	IV	
金融経済教育 株式シミュレーション学習	5	1 経済、金融、株式会社、証券市場の役割について	【検証授業第1時】 ・株式会社の基礎、意義、歴史について知る。 ・DVD視聴により、「経済」、「金融」、「株式会社」、「証券市場の役割」について知る。 ・株式投資を理解する。	全学級	課題設定 ・説明を聞き、株式会社等について知っていることを発表する場面 ・視聴並びにワークシートを記入する場面 (発表態度、視聴態度、ワークシート)	○				①・⑤
		1 株式シミュレーション1 ・長期投資(インベストメント)	【検証授業第2時】 ・オリジナルの株式学習ゲームのルールを理解する。(株日記まで) ・自分の応援したい会社に模擬投資する思考と株式購入の技法を理解する。	班・個	課題設定・行動 ・パソコンを活用し、インターネット上での仮想株式購入する場面 ・ワークシートを記入する場面。 (学習態度、ワークシート)		◎	○		① ①
		1 株式シミュレーション2 ・トレーディング1 ・複数銘柄購入	・トレーディング(売買)を目的とした株式を購入する。	班・個	情報収集・活用 ・パソコンを活用し、インターネット上での仮想株式を複数購入する場面 ・ワークシートを記入する場面。 (学習態度、ワークシート)		◎	○		② ②

#### 4.4 検証授業指導計画と指導法の創造と工夫

##### 4.4.1 本校生徒の実態（対象1学年）

1学年工業科（情報電子科）3，商業科2計5学級の県下唯一の情報系専門高校である。

以下、条件を示す。

##### ○検証基礎条件（1学○組 情報電子科）

- ①対象生徒は、経済系授業を受ける機会が少ない工業科1年生。  
※なお、進路は卒業後半数以上が県内外の企業に就職。
- ②経済金融授業は3年間で1年次現代社会（2単位）完結
- ③在籍40名（男子37名・女子3名）運動部生が多く元気で活発。
- ④9割が大分市内中学出身・1割が近隣中学出身。
- ⑤知識・技能の理解・習得には比較的時間がかかる生徒が多い。
- ⑥特設の「総合的な学習の時間」並びに「経済金融学習」として、1単位を想定し実施。
- ⑦本校「総合的な学習の時間」は課題研究代替型（3年次履修）。
- ⑧検証授業期間は文化祭準備のための授業短縮期間（45分）  
※90分の中で、検証授業は指導案どおり50分で実施。

##### 4.4.2 検証授業の目標

- ①高校初学者に対する金融（株式）教育における投資シミュレーション型学習導入の効果的指導研究において、作成した教材の適切性を検証する。
- ②限られた時間の中で、株式投資の基本を正しく理解し、社会を身近に感じ、経済に興味・関心をもって、主体的・行動的に取り組むスキルが身に付いたかを検証する。
- ③総合的な学習の時間の中で、シティズンシップ教育（経済金融分野）を位置付け、学科の枠を越え全学年（全校）的に展開していける可能性と課題について検証する。

以上、3点を設定した。

##### 4.4.3 検証授業学習指導案並びに指導法の具現化と工夫

###### ①単元：

CE&総合的な学習の時間 経済金融活動分野

－株式投資を通して社会参加してみよう－

###### ②使用教材：

ア. 株式学習ゲーム 資料一式

【日本証券業協会・東京証券取引所グループ】

イ. 視聴覚教材：おだんご娘. とフシギな経済テレビジョン～株式会社とお金のしくみ～

【日本証券業協会・東京証券取引所グループ  
2010年制作】

###### ③単元の指導目標

前述金融教育の4分野の中から2分野を選び、指導目標を資料のように設定した（表3）。

表3 検証授業指導案

（総合的な学習の時間）単元の目標

単元の指導目標	<p>(1)お金や金融のはたらきを理解させ、主体的な判断力を身に着けさせる。【分野2 お金や金融のはたらき】</p> <p>(2)家計・企業・政府、市場経済の意義並びに産業の発展と海外経済との関係について理解させ、主体的に行動できる力を身に付けさせる。【分野2 経済把握】</p> <p>(3)景気変動や経済政策が自分の暮らしとどう関係しているか理解させ、自立的に意思決定し、行動できる力を身に付けさせる。【分野2 経済変動と経済政策】</p> <p>(4)経済社会が抱える課題に関心を持たせ、合理的・主体的に考え行動できる態度を身に付けさせる。【分野2 経済社会の諸課題と政府の役割】</p> <p>(5)投資の活動や広く社会で働く人との関わりの中で、社会に参画していくことや社会全体にプラスと考えられる消費・生活行動を実現していこうとする態度を身に付ける。【分野4 社会への感謝と貢献】</p>
---------	---



④単元における評価規準について

表2をもとに本単元で使用する規準について明確に規定した。特に問題解決能力の規準を中心に設定した。

⑤CEの視点について

CEの育成すべき能力から、意識面では、社会への参画に関する意識、知識面では経済分野での活動に必要な知識等に重点をおき、設定した。

⑥評価指標 (rubric) について

評価指標を学習指導案(学習の展開)に付けた。更に、評価規準【評価の観点】から評価基準、評価資料(観察やワークシート等)の一体化を行った。

これにより、「全職員で取り組む総合的な学習の時間」において、指導と評価の一体化が図れると同時に、汎用性や再現性を高めるものと考え作成した。

5. 検証授業の実際と考察

5.1 【検証授業第1時】

10月21日 木曜日 5,6限目 出席生徒35名

5.1.1 学習内容の概略

- ①株式会社の基礎、意義、歴史について知る。
- ②DVD視聴より「経済」・「金融」、「株式会社」、「証券市場の役割」について知る。
- ③株式投資を理解する。

5.1.2 検証事項・検証の視点と方法及び考察と分析

教師の簡単な自己紹介やブレン・ストーミング等の後、本検証授業(50分)を行った。本時は、検証事項を3点計画していたので、それらについて時系列順に述べる。

【検証事項1】	検証の視点	検証方法
・導入のプレゼンテーションで、初めての学習内容をとらえることができたか。更に内容に再現性や汎用性があったか。	○初めての総合的な学習、単元・学習内容に対して興味をもって取り組む姿勢ができています。	・発表 ・ワークシート ①

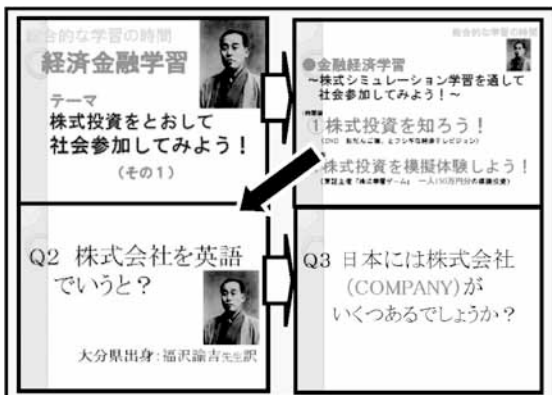


図7 授業導入のプレゼンテーション資料

図7は、導入に用いたプレゼンテーションの一部である。全て単一のシートとして、指導者側の再現性や汎用性、操作性に留意して作成した。

<検証1-考察と分析>

- 多くの生徒が最初の発問から挙手し、次々に発表した。
  - 全員が顔を上げ注目し、初めての学習内容に興味をもって取り組む姿があった。
  - ワークシートNo.1 ①「4つの質問」の記入率は100%・正解率は99.2%であった(図8)。
- 以上から、生徒は初めての学習内容を十分とらえられたと考察する。

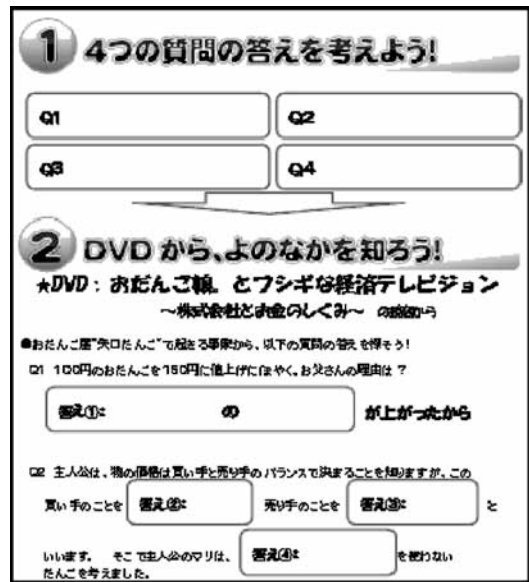


図8 ワークシートNo.1

総合的な学習の時間(金融経済活動分野)  
- 株式投資をとおして社会参加してみよう! - No.1

次に2つ目の検証事項について述べる。

【検証事項2】	検証の視点	検証方法
・最新DVD教材から「経済」、「金融」、「株式会社」、「証券市場の役割」までの要点をつかむことができたか。 ・更に次のシミュレーション学習への興味・関心を引き出せたか。	○DVDを視聴しながら、対応したワークシートにそれぞれの要点を記入できている。 更に教師の発問に適切に応答できている。 ○ワークシートの記述に興味・関心の高まりがみられる。	・観察(視聴態度・発表・ワークシート①の記入)

本時の展開部であるDVD視聴につなげ、経済や金融、株式投資までを網羅する知識を得ながらワークシートに整理する約30分の検証であった(図9)。

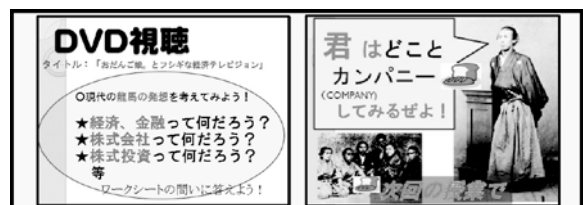


図9 展開とまとめ(抜粋)

<検証2－考察と分析>

- 全員が最後まで視聴していた。
- 全員が対応するワークシートに要点を記入していた。
- 更に、チャプターごとに入れた発問に適切に発表できた。
- 前述ワークシート（計15カ所の空欄）の解答者率は100%・全525カ所の正解率は99.4%であった。

DVD教材と対応したオリジナルワークシート等から「経済」・「金融」～「証券市場の役割」までの要点を掴むことができたと考察する。

- 更に、次時のシミュレーション学習への興味・関心を引き出せたか、という点も生徒の感想に、本時の理解度や次時への興味・関心の高まりが多く記載されている（表4）。

以上から、学習内容の要点を十分とらえることができ、次時への興味・関心が高まりを見せたことと考察する。

最後に3つ目の検証事項について述べる。

【検証事項3】	検証の視点	検証方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめのプレゼンテーションから、株式会社を具体的かつ身近なものを通してとらえ、株式投資の意義が確認できたか</li> <li>・設定内容のレベルが生徒の能力が合致していたか</li> <li>・内容及び教材に再現性や汎用性があったか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○株式会社の意味や意義を確認できたか、起業の重要性、資本や投資の広がりと重要性、身近な社会貢献への広がりについてワークシートに記入できている。</li> <li>○更に、意欲的に教師の発問に回答できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表</li> <li>・ワークシート</li> <li>①・②</li> </ul>

視聴後約10分間、まとめのプレゼンを行った。

<検証3－考察と分析>

- この時点で、授業開始から約80分が経過していたが、最後まで顔を上げ、ワークシートを記入していた。
- ワークシート（解答欄全665カ所）の記入率99.6%・正解率は99.1%であった。更に、生徒の感想には、株式会社の意味や意義の理解、起業の重要性、資本や投資の広がり等についても記入がある。
- 総括的、発展的な発問にも、意欲的かつ真剣に答えを導き出そうとし、最後は次時につながる解答ができた。
- 進行も時間設定どおり、スムーズにできた。

以上から、生徒たちは、株式会社を具体的かつ身近なものとしてとらえ、株式投資の意義が確認でき、内容のレベルも適切であったと考察する。

更に、次時までの課題ワークシートNo.2にも積極的かつ意欲的な質問が出された。

最後に、ワークシートNo.1の「今日の授業の感想や意見をまとめよう」の記載を指示した。提

出率は100%であった。

以下、全員分の記載内容を3段階に分類し、考察した結果を記載する（表4）。

「興味・関心・意欲から探求への深まり」を重視した分類法とした。区分は以下のとおりである。

○3区分の分類（「探究基礎導入」の位置付け）		
↓ 深	A 授業が楽しかった。	2名（5.7%）
	B 授業がよく分かった。	17名（48.5%）
	C もっとと知りたい。	16名（45.8%）

表4 ワークシートNo.1 生徒の感想・意見（全員分）

A	初めて株式の勉強をしたけど、とても分かりやすく、とても楽しかったです！！！！！
A	株式会社の詳しいところを学習でき楽しかったです。
B	株のことがよく分かった。株式会社が140万社あることにビックリしました。
B	株式会社を作ったのが坂本龍馬とは知りませんでした。大分出身の人がすごいところで働いているんだな～と思いました。
B	東証一部に上場している会社がほんの一握りしかないことにビックリしました。
B	普段自分たちが店で買っている商品とか、いろいろな工夫をして出来ているんだなと思いました。
B	テレビのニュースをみていて、「株」のことがよく分からなかったけど、今回の授業を受けて、株についてよく分かった。
B	日本の経済のしくみがよく分かりました。ニュースなどで株価とか上場とか言われても、イマイチ分からなかったけど、やっと分かりました。
B	株式についていろいろ学べたのでよかった。あと、経済についても学ぶことができた。
B	自分の知らないことがたくさん知れて良かった。少し経済への興味が湧いてきました。
B	株式や会社のことがよく分かった。
B	今まで分からなかったことを知ることができた。授業の内容はとても面白く楽しかった。株について少し分かった。
B	経済のことはあまり深く考えていなかったけど、今日の授業で学ぶことができたので良かった。
B	初めて株式の意味が分かって良かった。
B	経済のことが今日でよく分かったので、とても良かったです。いい勉強になりました。
B	今日の授業では、株式などの事がよく分かってきて良かったです。
B	株のこと、経済のことが分かった。
B	スクリーンに分かりやすく説明があったので、良かったです。あとDVDも分かりやすく面白かったです。
B	ビデオ等を入れて、分かりやすく学べたのでとても良かったです。
C	正直、最初は株式とか知らなくて興味もあんまりなかったけど、今日の学習でいろいろ知って興味も湧いてきたし、とても楽しかったです。
C	金融についてももっと詳しく知りたかった。「株式」や「証券取引所」のことがよく分かった。
C	株には高いリスクがあるもののその分の価値があるのを詳しく分かりました。
C	今日の授業では、株のことについて学びました。自分は株主になるから分からないけど、いい体験になったと思います。なので、この経験を生かしたいです。
C	株価が株式がどうなっているか深く知って、こんな風になっているんだと詳しく初めて知りました。いい授業だった。
C	とても分かりやすく、金融がこんなに身近にあるなんて思いませんでした。何となくですが、株式について分かった気がしました。
C	経済のしくみが分かって良かったです。将来に役立てていきたいです。
C	先生のテンションが良かった。写真のスクロールの所のNYの高校がとても気になる。
C	DVDだったので、とても分かりやすかった。株についてなどよく分かったので今後、テレビなどで、よく見るようにしたい。
C	金融のこととか、今までよく分からなかったけど、DVDで結構分かった。結構授業が楽しかったです。来週が楽しみです。
C	DVDで分かりやすく説明されていて株式のことがすごく勉強になりました。もっといろいろ知りたいと思いました。
C	経済についていろいろ知ることが分かったので、楽しかったし、役に立った。次回も楽しみたい。
C	今日はわかりやすく株式会社などの経済のしくみについて、理解できたと思います。次回も頑張りたいです。
C	DVDを見ながらの説明は分かりやすく、とても楽しいものでした。次回も楽しみたいです。
C	2時間続けて授業をしたのにとっても分かりやすくDVDなどを使ったのでとても分かりやすく早く時間が過ぎてあっという間に時間が終わった。とても楽しい授業でした。
C	とても分かりやすく、楽しかった。次回は、何をするのか楽しみです。授業じゃないみたいで、寝たくありませんでした。

上記内容をまとめると、文章表現率は100%で、全員が本授業に対して、肯定的な意見を記載している。

また、授業内容に対してよく分からなかった点を記載した意見はなかったため、授業最後の発問で理解度等を確認した点を裏付ける結果だと考察する。



最後に、対象生徒に「診断的評価」として、授業前にとったアンケート調査の結果と考察について述べる。

◎金融経済に関わる対象生徒調査（診断的評価）

1	日頃、テレビや新聞等で、政治・経済、社会のニュースをよく見ますか？		
ア	見る	5	13.2%
イ	どちらかといえば見る	18	47.4%
ウ	どちらかといえば見ない	11	28.9%
エ	見ない	4	10.5%

対象生徒の60.6%の生徒がニュースを「どちらかといえば見る方」だと回答している。

2	日頃から経済や金融に、興味・関心がありますか？		
ア	ある	2	5.3%
イ	どちらかといえばある	8	21.1%
ウ	どちらかといえばない	21	55.3%
エ	ない	7	18.4%

経済や金融に興味・関心が「ある・どちらかといえばある」と回答した生徒は26.4%である。

次に金融経済の基礎知識という観点から、中学校公民（3年次必履修）並びに高等学校現代社会（本校1年次必履修）の教科書の中から質問した。

3	本年度の日本の国家予算はおおよそいくらでしょう？		
ア	約90兆円	8	21.1%
4	日々の株価が決まるのはどこでしょうか？		
イ	証券取引所	12	31.6%
5	株式会社の株式購入をしたい時に利用する場所はどこでしょうか？		
ア	証券会社	13	34.2%

3は、2とほぼ同数である。4・5はともに約1/3の正解率である。最後に為替レートについて質問した。

6	昨日の円（対ドル）の為替レートは、いくらでしょう？		
ア	80円～84円	9	23.7%

結果は、2の結果とほぼ同じである。当日のレートは約10日間81円台の固定で推移しており、連日テレビや新聞等で円高進行が大きく報道されていた。

○第1時の総括

本学習内容は非常に幅・奥行きともに深く、更に生徒にとって金融経済は、日頃は身近に意識されていないであろうという点は、ほぼ想定どおりであった。

1単位、計13時間での「総合的な学習の時間」の単元設定において、短時間の導入で興味・関心を高め、さまざまな知識やスキルを身につけたうえで、高めていき次の展開につなげていかねばならない。「探求基礎への効果的導入法」を考察し、最も合致した視聴覚教材を選定しプログラム化した。特に、シミュレーションゲームへの展開を分かりやすくプレゼンし、それに対応したワークシート等を工夫した。第1時を終え、考察する。

- (1) 作成した教材の適切性を検証できた。
- (2) 内容及び教材に再現性や汎用性を確認できた。更に学年単位での展開も視野に入れ、再現性や汎用性を意識した点も、十分手応えを得る

- ことができた。
- (3) ICTを活用し進行したことで、成績や意欲に差がある集団の意識・知識の定着にも効果があった。
- (4) 金融経済学習に対しての抵抗感やバイアスを低くし、生徒の関心・意欲を高められた。

5.2 【検証授業第2時】

10月26日 火曜日 5,6限目

5.2.1 学習内容の概略

○株式シミュレーション学習1

- ・長期投資（インベストメント）
- ・オリジナル株式学習ゲームのルールを理解する。
- ・応援したい会社に模擬投資する思考と株式購入の技法を理解する（図14）。

○第2時の実施条件（基礎データ）  
・使用教室：商業棟1F 総合実践室（生徒用 PC16 台設置）

5.2.2 検証の観点・内容及び考察と分析

実習の通じてのスキルの獲得を中心に述べる。

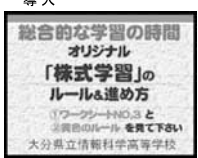
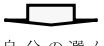

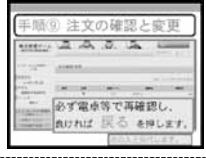


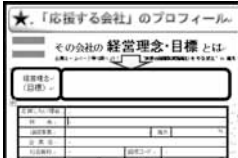

【検証事項】	検証の視点	検証方法
1 オリジナルの流れとプレゼンテーションから学びを促す。	○初めてのルールと環境に対応し、自分の応援したい会社と理由を記載できている。 ＜図 14＞シミュレーションゲーム導入 	・発表 ・ワークシート③  自分の選んできた会社とその理由を積極的に発表した。 ワークシートやプレゼンを参照しながら作業を自立的に進めることができていた。
2 自らパソコン操作し、購入記録を録せしめる。	○指定した条件下でログインし、チームで協力し、自ら操作を行いワークシートに記録している。 ＜図 15＞授業 実習の様子（左） ＜図 16＞株購入スキル習得の説明（右）  	・観察（作業態度） ・ワークシート③ ・ポートフォリオ①（株日記）  生徒たちはチームごと自立的に協力しながら、パソコンを操作するスキルを獲得し、ワークシートに必要事項を記載していた。
3 購入した企業の必要情報を調べ、記録する。	○チームで協力し、各自で企業や株価情報等を検索し、ワークシートや株日記へ記入できている。（株購入＆スキルの習得） ＜図 17＞意欲的に取組む実習風景（左） ＜図 18＞株日記（ポートフォリオ）（右）  	・発表 ・ポートフォリオ①（株日記） ・ワークシート④  生徒たちはチームごと自立的に協力しながら、インターネット上で株価検索を行い、適切に購入していた。 また、購入した企業のプロフィールや情報を調べ、記入法の説明を受けた後、株日記に記録していた。

図10 第2時—検証事項と検証結果

なお、オリジナルルール詳細は別紙ワークシートにし単元終了まで活用できるようにした(図11)。

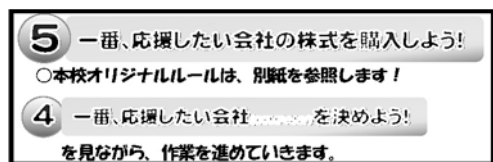


図11 検証授業 2時間目ワークシートNo. 3

### 5.3 検証授業全体のまとめの考察

検証授業を振り返りまとめとして4点を挙げる。

- (1) 作成した教材の適切性が検証できたこと。
- (2) 限られた時間で、株式投資の基本を正しく理解し、社会を身近に感じさせられることを検証できたこと。
- (3) 系統的理解と興味・関心を喚起し、学習時に興味・関心・意欲をもって取り組めるかを検証できたこと。
- (4) 「総合的な学習の時間」でC E（金融経済分野）を位置付け、学科の枠を越え全学年（全校）的に展開できる可能性を検証できたこと。

最後に、研究仮説の「株式を学習することにより、経済に興味・関心をもって」の部分事前・事後で比較した結果を下記に示す(図12)。

「ある・どちらかといえばある」と回答した生徒は、76%以上で、事前比に比べ約3倍に大きく増加した。

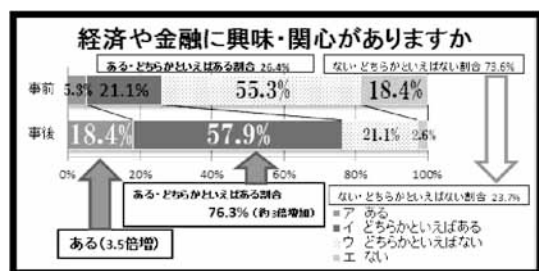


図12 「経済や金融への興味・関心」の向上

## 6. 成果と課題

### 6.1 成果について

本研究を振り返り、成果を6点にまとめる。

- (1) C Eの理念・現状整理ができ、日本では発展途上領域であるC Eの具体像を明確にできたこと。
- (2) C Eの中で、金融経済教育はきわめて重要であり、特に経済的自立と自律を担う資産形成者を育成するという人材像が明確となったこと。
- (3) (2)の具現化にあたって、行動的な知識やス

キルを身に付ける内容・領域の指導強化が重要であること。

- (4) 導入の効果的指導研究を通し、単元指導計画・評価について検証できたこと。
- (5) (4)に基づいた指導案並びに教材や指導法の有用性・汎用性・再現性が確認できたこと。
- (6) 「総合的な学習の時間」を活用し、新学習指導要領においても、全員に十分指導可能であること。

最後にC Eの観点から、「経済（金融）に関心をもって金融学習に行動的に取り組む生徒の育成を目指した」部分の考察を述べる。

スキルの獲得まで含めた株式投資の基本について、86%の生徒が「理解できた・どちらかといえば理解できた」と答えた。株式購入のスキルだけに限定すると91%以上となる(図13)。

質問1 株式投資の基本が理解できましたか？		
ア 理解できた	16	45.7%
イ どちらかといえば理解できた	14	40.0%
質問2 今日の株式購入の手順は、理解できましたか？		
ア 理解できた	16	45.7%
イ どちらかといえば理解できた	16	45.7%

図13 2時間を振り返って  
(C Eの視点からの考察)

更に生徒の事後の意見・感想から、内容を3段階に分類した結果を記載する(図14)。

なお、3区分は授業の生徒の知識と行動を育むねらいから「興味・関心から行動への高まり」を重視した分類とした。区分は以下のとおりである。

○ 3区分の分類（「高い興味・関心から行動」へ）		
高	A 興味・関心が高い	2名（5.7%）
	B もっと知りたい	2名（5.7%）
	C 積極的行動をしたい	5名（14.3%）

A	これから株価がどう変わるのか、とても楽しみです。
A	株はハイリスク・ハイリターンだからこそ、ここまで大きくなったんだなと思いました。
B	もっと経済や金融に興味・関心を持ちたいです。
B	株について知れて良かった。もっと知りたいと思いました。
C	株を買いたくなりました。
C	難しかったけど、ある程度よく分かったので、これからも株価に注目していきたいです。
C	とても面白かった。株の購入の仕方が分かるようになりだした。今後もこれを継続していけたらと思います。
C	少ない時間だったけど、結構いろんなことが分かりました。ここで勉強したことを今後につなげていきたいです。
C	株価の動きがとても早くて、驚きました。いつか大人になったら投資をしたいです。

図14 高い興味や行動的意欲を具体的に示した声

### 6.2 課題について

本研究を通じて、C Sについて、学校現場ではまだ広く認知されていないことが明確となった。また、対象生徒への「小・中学校での総合的な学習の時間での経験・スキルに関する調査」から、小・中学校間で大きな差が生じていること、更に実際の授業から、同じ学校の生徒間でもそのスキルの習得に差があることが分かった。

また、先進事例では、CSとCEの具現化に向けて、学校だけの取組だけでなく、地域住民、行政、企業、NPO、大学の方々が運営に参画していることが分かった。

以上から、課題を3点にまとめる。

- (1) CSやCEの理念を広く普及し、早期に学校マネジメントの中に位置付け、教育課程に組み込むこと。
- (2) 学校教育での展開に向け、教科・学科を越えた取組や校種ごとの発達段階に応じた系統性ある指導内容と評価を構築すること。
- (3) 社会形成・社会参加に関する教育の全面展開に向け、学校外部との連携や開かれた学校づくりを一層推進すること。

## 7. まとめ

CSとCEは、世界各地でますます広がりを見せるであろう。日本でも、「子ども・若者支援育成法」や「新しい公共」の理念等に基づき、全国で様々な具体的な取組みが急速に展開されると考えられる。



図15 CS・CEのまとめ

本研究でCSを『世界標準の生きる力、生き抜く力』と定義した。『CSを身に付けたくましく社会で生きていける児童・生徒の育成を目指すこと』が、学校教育におけるCEの理念であり、21世紀の地球市民の喫緊の課題であるとまとめる(図15)。

「点から面へ」本研究を第一歩にCSとCEの一層の普及と推進に向け、絶ゆまぬ研究と修養に励みたい。

## 参考文献

Dominiqu, S. R. and L. H. Salganik (2006), Key Competencies, Akashi Press (ドミニク・S・ライチェン, ローラ・H・サルガニク (2006) 『キーコンピテンシー—国際標準の学力をめざして』 明石書店).

Giddens, A. (1998), The Third Way : The Renewal of Social Democracy, Polity Press (佐和隆光訳 (1999) 『第三の道—効率と公正の新たな同盟』 日本経済新聞社).

Marshall, H. and T. Bottomore (1992), Citizenship and Social Class, Pluto Press (岩崎信彦・中村健吾訳 (1993) 『シティズンシップと社会的階級—近現代を総括するマニフェスト』 法律文化社).

Tichy, N. and W. Bennis (2009), Judgment, Diamond Press (宮本喜一訳 (2009) 『決断力の構造—優れたリーダーの思考と行動』 ダイアモンド社).

天川晃, 高木保興 (2007) 『市民と社会を考えるために』 放送大学教育振興会.

有元秀文 (2008) 『必ず「PISA型読解力」育つ七つの授業改革—「読解表現力」と「クリティカルリーディング」を育てる方法』 明治図書.

解放教育研究所 (2010) 『人権, 共生, 未来をつくる 解放教育9月』 明治図書.

加治佐哲也著, 監修 (2010) 『『夢実現学習』で中学校改革』 学事出版.

神奈川県総合教育センター (2009) 『「シティズンシップ教育」推進のためのガイドブック』.

金子郁容 (2002) 『新版 コミュニティ・ソリューション』 岩波書店.

荻谷剛彦, 志水宏吉他, 調査報告 (2002) 『「学力低下」の実態』 岩波書店.

カンブリア宮殿 (2009) 『村上龍×経済人1 挑戦だけがチャンスをつくる』 日経ビジネス人文庫.

教育出版株式会社 (2009) 『検証 教育改革 品川区の学校選択制・学校評価・学力定着度調査・小中一貫教育・市民科』 教育出版株式会社.

金融広報中央委員会 (2007) 『金融教育プログラム—社会の中で生きる力を育む授業とは—』.

金融広報中央委員会 (2009) 『はじめての金融教育 知るぼると』.

経済産業省 (2006) 『「シティズンシップ教育と経済社会での人々の活躍についての研究会報告書』.

児島邦宏, 工藤文三編 (2008) 『中学校「総合的な学習の時間」評価の工夫と実際』 教育出版.

小玉重夫 (2003) 『シティズンシップの教育思想』 白澤社, 現代書館.

佐藤真編著 (2008) 『中学校新学習指導要領の展開 総合的な学習の時間編』 明治図書.

品川区教育委員会市民科カリキュラム作成部会 (2006) 『品川区学習指導要領』 教育出版.

証券知識普及普及プロジェクト (2007) 『はじめませんか金融経済教育「みんなで体験! 株式会社とお金のしくみ」「株式学習ゲーム」実践事例』



- 集】。
- 杉本厚夫, 高乗秀明 (2008) 『教育の3C時代 イギリスに学ぶ 教養・キャリア・シティズンシップ教育』世界思想社。
- 高橋亮平, 小林庸平, 菅源太郎・NPO Rights (2008) 『18歳が政治を変える』現代人文社。
- 高階玲治 (2006) 『豊かな心を育てる「社会性育成」力』ぎょうせい。
- 帝国書院 (2006) 『社会科 中学生の公民 地球市民をめざして 初訂版』。
- 寺脇研 (2009) 『2050年に向けて生き抜く力』教育評論社。
- 内閣府 (2010) 『子ども・若者ビジョン』子ども・若者育成支援推進本部。
- 二宮皓 (2007) 『市民性形成論』放送大学教育振興会。
- 日本証券業協会, 東京証券所グループCSR推進部 (2010) 『おだんご娘, とフシギな経済テレビジョン〜株式会社とお金のしくみ〜』。
- 藤田英典 (2006) 『教育改革のゆくえ 格差社会か共生社会か』岩波ブックレット。
- 藤原和博 (2009) 『よのなか科 ワークシート』正進社。
- 藤原孝章 (2009) 「日本におけるシティズンシップ教育の可能性」『同志社女子大学学術研究年報』。
- 平成21年度教育課題研修指導者海外派遣プログラム 報告書 (2009) 「伝統・文化の教育イギリス」。
- 嶺井明子 (2007) 『世界のシティズンシップ教育 グローバル時代の国民/市民形成』東信堂。
- 三原淳雄 (2009) 『バフェットと竹田和平富を築く大富豪の教え』日本文芸社。
- 三堀仁 (2009) 「シティズンシップ教育推進のための研究カリキュラム開発と実践」神奈川県立総合教育センター。
- 宮島喬 (2004) 『ヨーロッパ市民の誕生—開かれたシティズンシップへ—』岩波新書。
- 宮本みち子 (2009) 『家族生活研究—家族の景色とその見方—』放送大学教育振興会。
- 守屋淳, 洪沢栄一 (2010) 『現代語訳 論語と算盤』ちくま新書。
- 文部科学省 (2009) 『高等学校 学習指導要領 平成21年3月告示』文部科学省。
- 山岡道男, 浅野忠克 (2010) 『アメリカの高校生が読んでいる 投資の教科書』アスペクト。
- 山根徹夫 (2007) 『諸外国における学校教育と児童生徒の資質・能力』国立政策研究所教育課程研究センター。
- 横浜市教育委員会編 (2009) 『横浜版 学習指導要領 総合的な学習の時間』ぎょうせい。